

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・今年の冬は大変寒く、初売りやバーゲンが好調で、かなりにぎわった。
		商店街（代表者）	それ以外	・新政権の積極的な経済政策により我々のマインドも変わってきている。政策効果に持続性が伴う確信が持てれば、日本経済は回復する可能性があると考えている。
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・株高や円安を背景に、大手企業は業績の回復が期待できるが、消費者には増税や輸入品の価格高騰等の先行き不安も増大している。このため、来客数が増加しているものの、店頭売上は連動していない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・国が経済を活性化しようとしているので、消費者も徐々に買物することに目を向けてきている。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・宅地造成や新築工事が始まり、建設業が好調だと感じる。それに伴い、来店客・売上高の増加につながっている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・平日の来客数は変わらないが、休日はいつもの1.5倍に増えている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・昨年秋のエコカー補助金終了後の落ち込みから少し脱却し、今月から販売量が上向いている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・春の需要期を迎えたことに加え、昨年末に主力車のマイナーチェンジがあったため、低価格・低燃費に安全性を備えた商品に手応えを感じている。
		その他小売 [ショッピングセンター]（副支配人）	来客数の動き	・来客数はやや増加している。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・景気が良くなっているかどうかは分からないが、昨年より売上は増えている。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・中間価格の新商品を発表したところ、予想以上に引き合いがあった。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・1月の売上は10億5,400万円となり、19か月ぶりに10億円を突破し、前月比12.5%増、3か月前比31.8%増、前年比では10.6%増となった。また、正月のレースの売上も4億円を超え、前年比では11.2%増となった。
		設計事務所（所長）	それ以外	・市内にある遊休地の開発が、少しずつ進み始めた。
		設計事務所（職員）	競争相手の様子	・年度末に向け、業界として繁忙期に入っており、手持ち業務量等も前年度より多く、売上増加が期待出来るようである。
変わらない		一般小売店[酒類]（経営者）	販売量の動き	・飲食店の動きが悪い。
		一般小売店[生花]（経営者）	お客様の様子	・正月や成人の日関連商品は売行きが悪かった。しかし、送別用商品は今年に入って売上が増えている。
		一般小売店[乾物]（店員）	お客様の様子	・景気が良くなっているという実感はないが、悪くなっているということもない。
		一般小売店[酒]（販売担当）	販売量の動き	・消費者の財布の紐が固いことに加え、寒さの関係か、外食することが減っており、料飲店への納入が少ない。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・婦人衣料の売上前年比がマイナス傾向で推移している。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・売れているのは、ポイントサービスや割引率を上げたりしている店舗で、そうでない店は、商品単価が下落している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数と売上高の前年比がここ数か月間、同じ傾向で推移している。
		スーパー（人事）	販売量の動き	・12月は踏みとどまった感じがあったが、1月に入ってから売上が減少している。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・ほぼ前年並みである。売上高や客単価が昨年より若干上回っているが、大きな変動はない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・市場は株高、円安となっているが、一般の消費にはまだ影響が感じられない。
		その他飲食 [ファストフード]（経営者）	来客数の動き	・広告宣伝を打っても以前の様に反応がない。買い控えをしているように感じる。

		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・政権交代を受けて株価が上昇するなど明るい話題はあるが、航空機のトラブルによる欠航や円安で海外旅行が伸び悩み、個人旅行は増えていない。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・例年並みの販売状況である。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来場者数が減少し、客単価も低下している。週末の予約も、引き続き低調である。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・来客数、客単価共に伸び悩みが続いている。
やや悪くなっている		コンビニ（総務）	来客数の動き	・気温の低下や天候不良により来店客数が減っている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・1年で最も売れる月なので、大きな期待をしていたが、バーゲン2日目以降は伸び悩み、特に月後半が昨年に比べて悪かった。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金終了後は、販売量が減っている。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・エコカー補助金の終了から新車受注、販売共に減っており、景気が良いとはいえない。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・例年、利用客が落ち込むシーズンであるが、今年は宿泊客だけでなく、地元のレストランや食堂利用者も減ってきている。利用を手控える動きがみられる。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・驚くほど毎日来客数が少ない。
悪くなっている		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上、外商売上ともに前年を大きく下回っている。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・正月の福袋やセールも前年より大幅にマイナスとなった。来客数の減少とともに単品買いが増えていることで、売上が大きく減少している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・建設関係の談合の影響から、建設関係の利用が少ない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・年が明けて動きはとても悪い。夜は街に人が出ないため、待っていても乗客がつかまらない。3か月前と比べて、売上が4割くらい減っている。
企業動向関連 (四国)	良くなっている	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・円安により輸出の採算が好転し、価格競争力も回復傾向にある。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・メガソーラー事業の需要が増加し、先月の約2倍の契約ができています。他にも年度末が近付いており、非常に忙しい。
やや良くなっている		食料品製造業（商品統括）	それ以外	・自民党政権による景気に対する回復期待・安定感が強く感じられる。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年が明けてから、全国の小売店からの発注量が増加している。
		金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・地震や津波に対する不安から新築マンションの販売が好調である。自民党政権となり公共事業が増えるのではないかと期待感から景気改善が予想される。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者も含めて物件に対する問い合わせがかなり増えてきている。
		広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・年明けから、良い案件が出てきている。
		公認会計士	取引先の様子	・今月の関与先財務内容を分析すると、明らかに良くなりつつある傾向がみられる。為替の影響であると思われるが、3か月前よりも良くなってきている。
変わらない		農林水産業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今は品薄で高単価で推移しているが、出荷が回復すると市況は軟調になると予測する。
		木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・政権交代による景気の上振れや消費税の駆け込み需要が少し見え始めた。また、東日本大震災の復興需要も始まっている。ただ、円安・株高で材料面の交渉が予想される。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・今のところ受注量に大きな変動を見込んでいないが、為替が円安に振れてきているので、その効果を期待する。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注競争が激しく、採算に合わない場合も多いので、受注につながっていない。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・まだ様子見をしている状況である。
		通信業（部長）	取引先の様子	・政権交代による期待感はあるが、実質的に状況は大きく変わっていない。

	やや悪くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年より落ち込みがひどい。しかし、新商品が一定の受注を確保できており、まずまずである。
		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・1月の物量は例年を大きく下回った。購買意欲の低下を受けての物量減少に加えて、年末繁忙期に荷主の運賃値下げ要請に応えなかった事が影響している。
	悪くなっている	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・昨年続いた円高の影響により受注量の減少が続いている。
雇用 関連 (四国)	良くなっている			
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・年度末に向けての求人がやや増加している。
		求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・各業種で好況の企業が明確になってきた。勝ち組企業では、予算を使いきる動きがあり、設備投資や物品購入、求人・広告等にお金をかけている。
		職業安定所（職員）	それ以外	・12月の月間有効求人倍率は0.93倍で、3か月前より0.13ポイント上昇している。
	変わらない	人材派遣会社（営業）	採用者数の動き	・派遣の需要としては長期雇用の人材の採用は特に変化がなく、欠員補充としてのニーズがある程度となっている。ただ、年度末に向けての季節的な採用者数は増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は落ち込んでいないが、新規求人数は減少している。パートなど非正規求人が多く、求職者の希望とのミスマッチの結果、充足に至らない求人が増加している。
		民間職業紹介機関（所長）	それ以外	・自民党政権に対する期待感はあるものの、地方に波及してくるのは1年先、2年先で、今すぐに景気が良くなるという期待感は薄い。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は昨年同時期に比べて2割ほど増加しているが、先月からは伸びがなく横ばいである。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・中心繁華街なのに人出が少なく、運転代行の利用者もわずかで、カラオケ店でも飲食物の注文が少ないという話を聞く。無駄に消費しない生活がすっかり定着してきているようだ。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・自民党政権による内需刺激策が景気を下支えし、企業マインドの改善が進むと期待されている。しかし、实体经济への波及は遅れるのではないかなど不安材料が多く、中小企業は慎重な見方を崩しておらず、中途採用等を手控えている様子が見られる。
	悪くなっている	-	-	-